

◇令和4年／2022年1月号 第101号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

「寅」は十二支の第三番目。「漢書」によると、「寅」は草木が伸び始める状態を表すとされ、虫へんに寅でミミズと言ひ、「寅」には蟻(ミミズ)に通じ、春の草木が生ずると言う意味もあります。新型コロナウイルスが早く収束し、芽吹き始めるように、新しいことにチャレンジできる年になると良いですね。



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博

新しい成長の礎に

新年あけましておめでとうございます。

一昨年から続く新型コロナウイルスはご承知の通り、大きな影響を書道界に与えました。現在は、一時に比べると様々な活動が再開されていますが、コロナ前の活気にはまだ及ばないというのが正直なところです。

とはいえ、皆様の創作意欲は衰えることなく、昨夏の東京都美術館はじめ、各地方展を無事に開催する事が出来ました。まもなく開催する新春展でも多くの皆様に出品いただき、贈賞式でも受賞者の皆様にお目にかかることを楽しみにしています。

ただし、全体の情勢としては会員数が漸減しています。今まで同様、産経国際書会の品格を維持し続けていくためにも、早急に減少を食い止める必要があります。出品しやすい環境づくりや魅力向上など、取り組む課題は山積しています。

令和4年の干支は壬寅（みずのえとら）。新しい成長の礎となる年と言われ、強者の象徴とされるトラのように私たちも勢いを増して行きたいと思います。

課題の1つ、来年の40回記念事業ですが幹部の先生方と相談しながら書会にふさわしい記念企画を構築して参ります。35回の台湾での久しぶりの国際交流展が活力をもたらしたことは記憶に新しいと思います。

本年も一層のご支援をいただき、書会と新聞社が車の両輪となって取り組んで参ります。引き続き、皆様方のご健勝、ご活躍を心よりお祈りいたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

難局を克服して未来へ

新年あけましておめでとうございます。

年頭に当たりまず願うことは、コロナの感染が収まり第39回産経国際書展の開幕を晴れやかに迎えられることです。贈賞式も祝賀会もこの二年間、通常通りには行えませんでした。会員の皆様と親しく顔を合わせる機会の到来を待ち望む次第です。

今年の書展会場はこれまでと同様の東京都美術館ですが、部屋数が二つ増えることでゆとりのある展示ができるようになります。それともなって会期も少し後ろに移動して8月下旬の開催となります。

充実した展覧となりますよう、コロナ禍で出品数の減少したことへの対応を早めをお願いできればと思います。

さらに先の話になりますが、来年は40回の記念展を迎えます。記念事業として何がふさわしいか、何ができるか（仮）40回記念事業準備委員会（理事長、理事長代行、副理事長若干名）を中心に早急に検討していかなければなりません。ご意見、ご提案等がありましたら事務局へお寄せ下されば幸いです。

二年に及ぶコロナ禍によって文化活動全体が大きく打撃を受けています。書の世界も例外ではありません。しかし、こんな時だからこそ書会と新聞社が力を合わせて難局を克服していくことが強く求められます。皆様お一人お一人のご発展をお祈りいたしますと共に、一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

新年に寄せて

最高顧問 齋藤香坡



首題の件について原稿を依頼されましたが、このところ書会も佐々木月花先生、田中鳳柳先生の最高顧問や重鎮を失い、古き友もめぼしくなっていました。これも止むなき人生の一齣(ひとこま)と片づけられるには寂しいことです。

産経国際書会の立場が年々薄らえていくのに何もしないでいるのは、芸のないことかと思うと、何らかの手を打たないと、本当に書会は魅力のない団体と化してしまいそうです。

その舵取りがマンネリ化していたとすれば、いつかは消滅の道を辿る結果にもなりかねないかと心配です。現状を維持することも大変ですが、若い芽を育てなければ、いずれ他会に吸収されてしまう様な雰囲気が濃んで見えても仕方のないことでしょう。産経国際書会と

しての持つべき存在感が、今は何処にあるのか。

コロナ禍が大きなネックとなっていることがないとは言えませんが、大切なことは、人プラス人の集合体が閉ざされたら、孤独の世界で寂しく終わるのか、他会の誘いに満足するか、土台石となって流されて終わるかの話です。

目標は高きに置いて、産経国際書会のカラーを今一度強めても良いのではないのでしょうか。虎は一夜にして千里を動くともいいますが、座して動かずんば大意を成さずでは、書会の行く末も覚束ない話になるでしょう。

さて、一石を投じましたが、会員ひとりひとりが良きに善処されることを期待します。とりあえず頑張りましょう。本年も宜しく願います。

令和4年の主なスケジュール

※新型コロナウイルス感染症の状況により変更する場合があります。

第38回新春展	令和4年1月26日(水)～2月7日(月)国立新美術館 2月1日(火)休館 贈賞式 1月27日(木)国立新美術館講堂 14時～
総会	令和4年4月14日(木)大手町サンケイプラザ 14時～(予定)
第39回本展締切	令和4年5月6日(金)
第39回本展審査会	令和4年5月30日(月)～6月2日(木) 東京都立産業貿易センター台東館
2022ジュニア展締切	令和4年6月13日(月)
2022ジュニア展審査会	令和4年6月27日(月)東京都美術館(予定) ※28、29日は、審査後作品整理
第39回本展 2022ジュニア展	令和4年8月14日(日)～8月21日(日)東京都美術館 9時30分～17時30分 15日(月)休館。14日は13時から、21日は13時まで。
第39回本展贈賞式	令和4年8月18日(木)明治記念館
2022ジュニア展贈賞式	令和4年8月20日(土)東京都美術館講堂(予定)
第39回関西展	令和4年8月24日(水)～8月28日(日)京都市京セラ美術館 贈賞式 8月28日(日)(予定)
第39回東北展	令和4年9月13日(火)～9月18日(日)宮城県美術館 贈賞式 9月18日(日)ホテルメトロポリタン仙台 15時～
第39回瀬戸内展	令和4年9月27日(火)～10月2日(日)広島県立美術館 贈賞式 10月1日(土)広島ガーデンパレス 14時～(予定)
第39回中部展	令和4年11月15日(火)～11月20日(日)愛知県美術館ギャラリー 贈賞式 11月20日(日)名古屋ガーデンパレス 12時～(予定)
理事会	令和4年11月30日(水)大手町サンケイプラザ 14時～(予定)

東北展

東北展実行委員長
松 崎 龍 翠

会期●9月17日(金)～9月22日(水) 会場●せんだいメディアテーク

東北展は令和3年9月17日より22日まで6日間に亘り、せんだいメディアテークに於いて開催されました。

今年もコロナ禍の不安の中ではありますが、後援を頂きました六県と会場の要請もあり、コロナ対策には万全を期し、お陰様で無事に所期の目的を達成することができました。

今展も中央展の入賞作品と書会幹部の作品に東北の出品作品と合わせ、立派な展示会場となり、昨年より多くの参観者を得て、好評裡に終えたことは実行委員一同の安堵となりました。只、作品鑑賞会やギャラリートークは密を案じ開催できなかったことは、会場の盛り上りを欠くことにもなり、コロナの一日も早

い終息を念願するばかりです。

今展の欣快は一年振りに贈賞式を行なったことです。来賓の伊達家十八代ご当主伊達泰宗様のご来臨を始め、書会より伊藤事業本部長、風岡理事長のご挨拶を頂きましたことは大きな喜びとなりました。また、伊達様より中西儷氏に伊達政宗賞の授与と含蓄のある御祝辞を賜りました。出席者一同深い感銘の中で充実した時間を過ごすことができました。

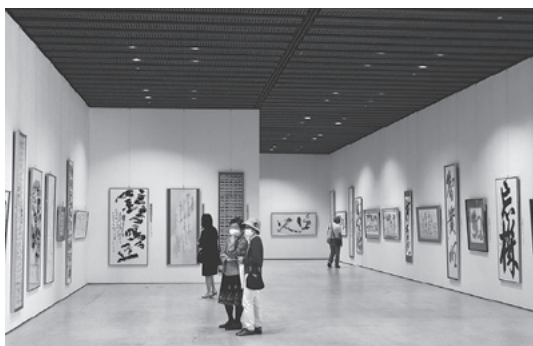
今展開催に当り、実行委員の尽力は元より東北六県の御懇篤なるご指導、仙台放送、河北新報の取材と登載、書会衆事務局長の御厚情に深謝し、御礼のご挨拶と致します。



万全のコロナ対策による受付



伊達政宗賞の授与



会場風景



左から伊達政宗賞、内閣総理大臣賞、高円宮賞、中国大使館文化部賞



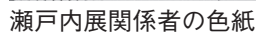
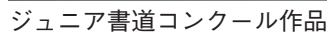
瀬戸内展実行委員長
大庭 清 峰

会期●9月28日(火)～10月3日(日) 会場●広島県立美術館

事業本部長、風岡理事長に出席いただき、受賞者のみなさんの次回作への意欲となった事と思います。

今年も昨年同様、祝賀会は開くことはできませんでしたが、来年は通常のような贈賞式、祝賀会が開けますことを切に願っております。ウイルスという見えない恐怖に憂うことなく、心豊かに書という芸術に向かい合える日が早く来ることを信じております。

今開催にあたりご尽力していただいた書会の先生方、関係者の方々、会員の皆様に改めて感謝申し上げます。



中部展

中部展実行委員長
村田白葉

会期●11月2日(火)～11月7日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

緊急事態宣言が解除され、感染者数も減少傾向となり、安心して外出できるようになった。晩秋の名古屋「愛知県美術館ギャラリー」において開催の中部展は、「会長賞」2名、「文部科学大臣賞」「準大賞」「愛知県知事賞」等、中部地区の出品者の活躍は目覚ましいものがありました。

そして最終日7日に2年振りに贈賞式・祝賀会を開催いたしました。8月の実行委員会で、10月の時点で緊急事態宣言が出されていなければ、贈賞式・祝賀会を開催したかどうか、との案が決議されておりましたので、実施の運びとなりました。出席者は例年よりも若

干少な目でしたが、受賞者の皆様の晴れやかな笑顔に接し、開催して良かったと改めて感じました。

祝賀会には大村秀章愛知県知事もご多忙の中、駆け付けて下さりご御祝辞も賜りました。そして、記念写真の撮影にも気軽に応じて下さり、参加者の皆さんには良い記念になったのではと思います。

最後に中部展実行委員の先生方をはじめ、展示・受付・搬出・祝賀会の準備等、多くの先生方のご協力を頂き、無事終了できました事、心より厚く御礼申し上げます。



会場風景



大村秀章知事を招いての贈賞式・祝賀会



2年振りに実施された贈賞式



中部展関係者の色紙

関西展

関西展実行委員長
松井 玲 月

会期●11月23日(火・祝)～11月28日(日) 会場●大阪市立美術館

第38回関西展は11月23日から28日まで、大阪市立美術館で開催されました。紅葉が美しく、緊急事態宣言も解除され、人出が多い状態の中で少々心配ではありましたが、無事に終える事が出来ました。今年度の展示数はうれしくも昨年より、19点多い398点でした。会場での受賞希望者も増えて、若い出品者の熱意を感じました。受賞者、付き添いの方々の笑顔に次年度は、しっかりと贈賞式・祝賀会が行えるようにと切に願っています。

今回の入場者数は1098人でコロナ禍前までには届きませんでしたが、熱心に時間をかけて見て下さる方々が多く、「いろいろな分野の作品があり、楽しく拝見しました。」との感想でした。

会期中日には扇谷英典・産経新聞大阪本

社代表がご来場下さり、実行委員の先生方と久しぶりの対面での話しに、花が咲きました。ご多忙の中、貴重なお時間有難うございました。

また、最終日には伊藤事業本部長が来場され、多くの受賞者に贈賞をお願いしました。お疲れ様でした。

さて、関西展は次年度より3年、大阪市立美術館が改修の為、新装になった京都市京セラ美術館での開催となり展示が楽しみです。また、他の地方展との交流が出来る事を期待しています。

明るいきざしに、実行委員の先生方には当番日以外にも進んでご協力下さり楽しく終える事が出来ました。感謝申し上げ報告といたします。



会場風景



会場内で行われた贈賞式



ジュニア書道コンクール作品



関西展受賞者の作品

第 39 回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2022ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2022年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門: A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門: A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門: A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門: A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門: 年齢制限あり(高校生～23歳のみ)、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法＝基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法G、H以外でも第2分野として認めますが、極端に小さい作品は不可。

- 【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)=1点13,000円、第2分野(税込み)=1点10,000円
 ※日本国籍以外の方1点=8,000円
 U23(高校生以上23歳まで)部門=1点5,000円、但し「2022産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。
- ※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円
- 【賞】 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。
- 【応募締切】 2022年5月6日(金) 午後3時までに指定表具店に搬入のこと。
- 【発表】 2022年8月上旬 産経新聞紙上にて。
- 【贈賞式】 2022年8月18日(木)、明治記念館(東京都港区元赤坂)
- 【展覧会】 会場：東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36
 会期：2022年8月14日(日)～8月21日(日) ※15日(月)休館
 開館時間：午前9時半～午後5時半 入場は午後5時まで
 ※14日は午後1時から、21日は午後1時まで
 入場料：500円(心身に障害のある人と付き添いの方1人、65歳以上、および学生は無料)
 展示作品：秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア以外の入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第39回 産経国際書展 審査員(予定)

特別選考委員／石川天瓦、岩田正直、岡部昌幸、風岡五城、齋藤香坡、青陽如雲、晋鷗、竹澤玉鈴、田村政晴、手島泰六、富田淳、原田圭泉、村越龍川、山下海堂、渡邊麗

漢字／泉芳秋、岩下鳳堂、及川扇翠、大田桂水、大庭清峰、小野秀美、勝田晃拓、北野香春、坂本香心、鈴木暁昇、高木撫松、武翠泉、土田芳水、平岡雄峰、村越弘鷹、山本晴城

かな／伊藤春魁、今口鷺外、加藤芳珠、鎌田悠紀子、齋藤春欣、谷蒼涯

現代書／大谷芳雨、加柴律子、斎藤修竹、五月女紫映、佐野麻理子、高頭子翠、正川子葉、三宅秀紅、宮崎礼子、山下翠風、山田秀園、渡邊麻衣子

篆刻・刻字／風岡五城、澤村春泉、高橋照弘、町山一祥

臨書／岩浅写心、岩間桃香、金丸鬼山、齋藤華秀、中村雪鷺、松井玲月

U23／大谷煌水、眞田朱燕、武富明子、長尾佳風、松崎龍翠

第 39 回 産経国際書展実行委員会

※任期は令和4年4月1日～令和5年3月31日

- 【実行委員長】 高橋照弘
- 【審査部】 本部長 村田白葉
- 漢字部 部長 吉野富龍 副部長 本橋春景
委員 石川晴空、菅井裳雲、十亀紫風、横溝景陽
- かな、篆刻・刻字、臨書部 部長 永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡望月、宮川彪子
- 現代書部 部長 西川万里
委員 恩田瑞貞、河口美櫻、小杉秀花、早坂喜伊
- 【搬出入部】 部長 磯邊哲舟 副部長 伊東玲翠
委員 梶谷綾泉、神谷映水、塚原桃虹、村山蛭泉、矢野春潮、横田玉華
- 【陳列部】 部長 山本晴城 副部長 永田龍石、渡邊祥華
委員 阿久津由美、安藤欣青、泉芳秋、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡村公裕、加藤松亭、五戸光岳、柴山枝峯、鈴木暁昇、鈴木蓉春、関根史山、中野和博
- 【図録部】 部長 今田篤洞 副部長 岩村恵雲、青木錦舟
委員 大久恵華、恩田瑞貞、久米麗鳳、諏訪春蘭、高橋峰月、武翠泉、中村蘭香、村山螢泉
- 【東京部会】 部長 武富明子 副部長 黒田浩芳
委員 岩間桃香、久米麗鳳、関根春峰、平本一恵、山下翠風
- 【東北展】 顧問 本多道子、田村政晴 実行委員長 松崎龍翠 事務局長 建部恭子
実行委員 大橋玉樹、小嶋カズ子、五戸光岳、鈴木葉光、田村恵子、芳賀祥緑、宮崎礼子、渡部美恵子、渡辺龍泉
- 【瀬戸内展】 顧問 宮崎春華 実行委員長 大庭清峰 副実行委員長 上村陽香
実行委員 大田桂水、吉本麗竹、石井思水、平岡雄峰、大段栄泉、松岡舟波、三宅秀紅、鈴木蒼、園田翠泉、田中春畝、曾根小徑、田中吴峰、美之口琴晴
- 【中部展】 顧問 村越龍川、風岡五城
実行委員長 村田白葉 副実行委員長 勝田晃拓、山本晴城、渡邊祥華
実行委員 赤堀翠柳、磯邊哲舟、伊藤春魁、老川揺舟、大場映翠、岡本杏華、刑部翠風、菊山武士、木村大澤、小泉玲洗、佐武照聲、田中龍渕、松岡輝峰、村越弘鷹、和田玲砂
- 【関西展】 顧問 平方峰壽、今口鷺外 実行委員長 松井玲月 副実行委員長 正川子葉
実行委員 小野亭良、長尾佳風、中村雪鷺、久田方琥、西尾蘭畦、篠原秀朋、生田佳葉、竹内美翠、上田智子、加藤竹黎、山田秀園、山口了世、山田娃泉

第 38 期 産経国際書会運営委員

- 【総務部】 担当理事長代行 坂本香心 部長 浅香秀子 委員 戸叶幽翠、人見恵風、鈴木博子
- 【会報・広報部】 担当副理事長 高頭子翠 部長 小川艸岑 委員 影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子
- 【企画部】 担当副理事長 金丸鬼山 部長 岩村恵雲 委員 恩田瑞貞、北野香春、大久恵華
- 【研修部】 担当副理事長 勝田晃拓 部長 永田龍石 委員 進藤栄峰、松岡望月
- 【教育部（ジュニア育成）】 担当副理事長 松崎龍翠 部長 眞田朱燕
委員 岡田崇花、小池雅游、今野美晃、笹山紅樹、鈴木葉光、高野彩雲、長谷川明扇、星野葉柳、宮平翠玲
- 【渉外部】 担当副理事長 高木撫松 部長 鎌田悠紀子 部員 遠藤香葉
- 【会員増加企画（東京）】 担当理事長代行 坂本香心、渡邊麗
- 【会員増加企画（大阪）】 担当副理事長 正川子葉、松井玲月

2022産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は3,900円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

開催要項	会 期	2022年 8月14日(日)～8月21日(日) ※8月15日(月)は休館 午前9時30分～午後5時30分(入場は午後5時まで) ※初日は午後1時から、最終日は午後1時まで(入場は午後12時半まで)	審査員	2022年5月に発表します。審査長は松崎龍翠、実行委員長は眞田朱燕。
	会 場	東京都美術館 2階第3・4展示室 文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。	発表	入賞者氏名は2022年8月上旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。
贈 賞 式	2022年8月20日(土)予定		募集期間	2022年4月1日(金)～6月13日(月) 消印有効
			搬入場所	〒134-0088 東京都江戸川区西葛西6-9-12 西葛西トーセイビル4F (株)スタッフアルファコミュニケーション内 「産経ジュニア書道コンクール」係

出品要項

応募点数 一人何点でも可 応募資格 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

		幼 年	小学生	中学生	高校生
書 体		楷書		楷書または行書	自由
大きさ	A部門	八つ切り(縦のみ)			小画仙半切(縦横自由) 小画仙全紙 2 分の 1
	B部門	半紙(縦のみ)			半紙(縦のみ) または 半切 よこ 4 分の 1 (縦横自由)
作品への名前等 の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小 1、2 年は姓名どちらかでも可		名前(姓不要)の下に 書または臨と墨書
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の左下隅に貼付			
		臨書は法帖名、創作は題名を 備考欄に記入のこと			

※八つ切り=半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切=たて135cm×35cm、

小画仙よこ半切=たて68cm×70cm、半切よこ4分の1=たて34cm×35cm

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	とら	まつり
小1	規定なし	せかい	なかよし
小2	規定なし	ゆうやけ	くす玉
小3	漢字1字以上	みか月	赤とんぼ
小4	漢字2字以上	明るい空	谷川の音
小5	漢字2字以上	元気な声	花火大会
小6	漢字3字以上	全力投球	創意と工夫
中学	漢字4字以上	自然環境	独坐大雄峯
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際	※金額は税込み、高校生A(たて半切、よこ半切)部門は軸装料含む。 また、軸装作品は展覧会終了後、返却します。※但し、返送料をご負担ください。 出品料は下記銀行口座にお振込みください。 みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名:ジュニア書道コンクール
A部門	1,000円	3,900円	600円	
B部門	600円	600円	600円	

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902までお問合せください。

一式資料をお送りいたします。

第38回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和4年1月26日(水)～2月7日(月)
2月1日(火)休館

午前10時～午後6時(最終日は午後3時まで)

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)

※テーブルカット、ギャラリートークは中止とさせていただきます。

※1月27日(木)午後2時から同美術館講堂にて贈賞式を行います。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため祝賀会は行いません。



今回は、代表展184点、新春展Ⅰ200点、新春展Ⅱ461点、合計845点を展示します。

うち大作は加藤桂谷評議員(現代書)、加藤松亭評議員(漢字)、植村良華審査会員(現代書)、田中秋芳審査会員(かな)、石原圭芳無鑑査会員(現代書)の5点となりました。

新春展Ⅰは昨年に比べ9点、Ⅱは19点増え、全体では28点増えました。このコロナ禍にも負けず、多くのご出品をいただき展覧会に活気が戻ることが何よりも喜ばしいことです。

新春展Ⅱの審査は12月3日(金)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で、今田篤洞、勝田晃拓、金丸鬼山、高木撫松、高頭子翠、高橋照弘、武富明子、松井玲月、松崎龍翠、村田白葉の10人の先生方により461点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

河村雪華、関秀岳、角田穂香、藤原彩園、本山鈴翠、渡部香茜

〈産経新聞社賞〉

新井紫燕、岩田綾佳、植西美侑、内田陽子、大江瑞恵、栗原京子

〈奨励賞〉

青森智泉、朝生育代、足立智教、阿部典翠、市川由布子、市川優花、市原澄子、伊藤芳翠、岩崎婉水、宇本美希、大島麗硯、大塚春草、大野漱雪、岡田知則、岡本恵巳、奥城蒼月、小倉有香子、小俣紫香、河本眞之介、後藤正子、五味尊子、斎藤瑛香、関紅龍、高橋里奈、滝沢鯉扇、蓼沼陽子、津端美佳、中川嶺泉、長瀬有里子、中村公子、林虚空、深松華夢、松田鶴信、マホニー由紀、森田玲心、山口彩苑、渡邊麻衣子

受賞者が
決まりました!



「産経国際書展」ポスター題字の募集

産経新聞社と産経国際書会は、昨年に続き今年1年間、第39回展のポスターや招待はがき、宣伝媒体などに使用する題字「産経国際書展」を募集します。会員であればどなたでも応募できます。

応募要項

提出物 半切4分の1(68×18cm)の紙に縦に「産経国際書展」と墨文字で揮毫

募集期間 2022年1月20日～2月28日

応募資格 会友以上の産経国際書会会員なら誰でも可

応募料 無料、何点でも応募可

応募方法 作品と連絡先(住所、氏名、電話、FAX、メールなど)を明記したものを同封して下記応募先までお送りください。

選考 産経新聞社事業本部長、産経国際書会理事長、ポスターデザイナーほか

採用謝礼 5万円

使用期間 1年間(2022年4月～2023年3月、第39回本展、地方展、新春展)予定

使用权など 産経新聞社・産経国際書会に帰属。また、デザイン上、採用した文字を横書きにしたり、拡大、縮小、彩色、補色する場合があります。

結果通知 題字の採用者のみに連絡(2022年3月中旬以降)

応募先

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会

問い合わせ TEL 03-3275-8902 FAX 03-3275-8974

e-mail: shokai@sankei.co.jp



第38回展で採用された題字

書 展 ト ピ ッ ク ス

朋邑書道会5周年記念作品展

三宅秀虹

●会期 9月23日(木・祝)～26日(日) ●会場 ふくやま美術館

コロナ禍のなか、一年延期でやっと開催する事が出来、大変嬉しく思っております。入場者も四百名を超える方々に御来場頂きました。当会のモットー「変化と成長」を繰り返しながら一步步精進して参りたいと思います。皆様より頂きます日頃の御支援に感謝で一杯です。重ね重ねお礼申し上げます。



第12回 書・墨・アート 渡邊麗展

渡邊 麗

●会期 11月2日(火)～12月5日(日) ●会場 杉並区芸術会館・座高円寺ギャラリー

「文字のちからー生きる力」をテーマに21点を展示。パネル立体連作「きみはいま何を求めて生きるのか」、大作「見えるもの 見えないもの」「明日は波に沈まず」など自作の語が中心。書を生み出す人の力、身体の中に脈打つ生命の力を感じさせる、圧倒的な躍動感、などと評されている。会期中のご観覧、祝電、祝花に感謝御礼申し上げます。書の可能性を追求し邁進していきます。



第50回千墨書道展

近藤豊泉

●会期 11月24日(水)～29日(月) ●会場 品川区民ギャラリー

コロナ禍の厳しい制約の下、五十回展を迎える事が出来ました。千墨書道会創設者椎葉海嶽(豊道春海門弟)は五十歳で早世、近藤豊泉(印南溪龍門弟)は後に椎葉海嶽の厳しい指導を受けて二年余、解散してしまった会を引き継ぎ、現在品川区主催のうおい塾終了後の人を中心に、己を磨き継続する事が力と一同書に向かい合っの記念展であります。



第40回東西書展

●会期 11月25日(木)～28日(日)
●会場 日本橋好文画廊

鈴木暁昇

伊藤欣石前会長が他界されてから、新体制での初開催となりました。2階メインギャラリーには伊藤前会長の作品を特別展示し、会員作品含め38点を展示、1階ギャラリーには紺紙金泥・銀泥臨書作品を中心に全臨作品を10点展示しました。

多くの先生方にご来場をいただき盛況に開催できましたことを厚く御礼申し上げます。

乾翠のこんにつたX

遠藤乾翠

●会期 11月30日(火)～12月5日(日) ●会場 銀座鳩居堂画廊

全10回シリーズ個展「乾翠のこんにつた」は、ようやくエピローグを迎えた。毎年、新作30点を目標に懸命に取り組んだ。ところが、回を重ねるごとに題材の選定が負担となってきた。それもそのはず、作品の良し悪しは題材によって決まると言っても良い。やっと終着駅に辿り着けたのは墨林内外の皆様のお蔭である。多謝。



■ コロナ乗り越え社中展再開しました！ ■

第34回研友社展

金丸鬼山

●会期 9月29日(水)～10月4日(月) ●会場 銀座かねまつホール

今年の研友社展は準備を始めた矢先に田中会長が体調不良で入院され、コロナ禍の状況下で面会する術も無く中止という選択肢もありました。しかし、会員皆の作品も粗仕上がり、昨年コロナ感染拡大で中止した経緯もあり今年は是非実施しなければとの会員総意のもと開催に踏み切りました。

しかし会場の定位置でお客様と談笑する田中会長のお姿が見えないのが一抹の悲しさを感じました。



第31回書心会書展

加藤深流

●会期 10月15日(金)～17日(日) ●会場 所沢市民文化センター

一昨年は建物の耐震工事、昨年はコロナ禍で空白二年、出品数が激減しました。授賞式は割愛、来館者へのクジ引きサービスも取りやめました。長岡三州米寿展を併催したこともあって、コロナ禍の中、合計313人来会、予想以上の活況でした。書会から衆事務局長、山口事務局次長、書心会顧問の桑原喬先生が御来観、御指導頂きました。32回展は令和4年10月14～16日、同じ会場です。

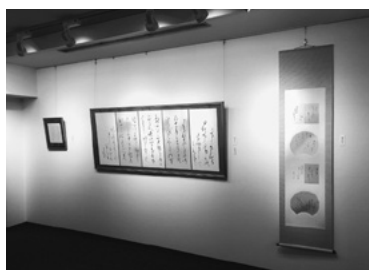
第53回一煌会書展

石川天瓦

●会期 10月29日(金)～31日(日) ●会場 銀座洋協ホール

昨年はコロナ禍の為、止むを得ず一煌展は中止となり、今年の開催も危ぶまれたが、小川瓦木先生の生誕百十年の節目でもあり、熱意ある会員の後押しや、数名の元会員の協賛を得て、開催することが出来た。全ての行事を省略しての開催だったが、来場者からは「良くやった。」との励ましの言葉を多く頂き、感無量で一煌展にも応援者が多数いる事を今更乍ら、有難く感じ「よしやるぞ」と勇気が沸き、来年こそは今迄の沈滞ムードを、一気に吹き飛ばすような一煌展を開催せねばならないとの覚悟が出来た。

また、小川瓦木「華下艸上」(右)と秘蔵の上田桑鳩「大筆」(左)も展示された。



第26回秋桜会書展

鎌田悠紀子

●会期 11月9日(火)～14日(日) ●会場 銀座大黒屋ギャラリー

今年の特長は全紙大の作品4点と、5人による毎月お題による「ことば」を俳句、短歌などから選び創作する方法です。現在まで9年続き、成長してきたので創作作品を合作展示しました。次回も楽しみです。また自分で染めた「墨流し」に西行の歌を書いたもの、初心者による自作の俳句、コロナ禍による会員減の中会員一同頑張りました。

現代書研究の誠心社は、産経国際書会の創設メンバーの一人で、現代書のパイオニアと称された國井誠海が創設。2021年、國井誠海一門創立75周年となり三世代続く歴史と伝統ある書団体です。現在、渡邊麗会長(産経国際書会理事長代行)の下、国内外で多数の生徒が書を学んでいます。2020年よりオンライン教室も開催。

主な活動は、毎年開催の誠心社主催公募展「誠心社現代書展」(会場:東京都美術館と上野の森美術館で交互に大作と小作品展を開催、海外からも出品有)、「産経国際書展」には第1回より毎年連続出品、2018年にはその功績を書会より表彰頂きました。月刊研究誌「誠心」、競書誌「大海」の漢字・仮名課題で古典を学び、創作課題では古典に裏付けされた表現・技法などを習得。錬成会を毎年2回、中野区立学校の体育館、箱根や長野県の温泉施設を借り切って開催してきました。多くの生徒が皆で切磋琢磨しながら作品制作に励んでいます。その他、年一回の昇段級試験、年末の懇親会、山形の國井誠海記念館を訪れる小旅行など開催。

近年はコロナの影響で、通信指導やオンラインで創作研究会、錬成会に代わる会長の個人指導を実施。対面の研究会と同様に生徒全員の創作課題(横半切)を会長が添削、現在30代~80代までが参加、皆が顔を合わせて交流もできています。多人数のため、第1部・第2部と設けて2部制で開催。遠方や海外からも参加可。また、録画した研究会や古典臨書の動画配信も行い、新しい形で自宅での更なる学書の向上、追求を目指しています。生徒は、自分の好きな時

間に何度も視聴可能、紙面余白や筆の動きの細部まで洞察できると好評です。今後も対面教室と同時併行で進めていく予定です。

本年1月で通巻842号となる誠心誌では、臨書-王羲之「楽毅論」「十七帖」「一条摂政集」「寸松庵色紙」など、創作-空海「金剛般若経開題」「風信帖」、詩文書-短歌、俳句、和歌、現代の語などの課題を学びます。毎月末に全国から本部へ集まる生徒の優秀作が加評と共に掲載されます。

誠心社創設当初より継承されてきた、日々の臨書を基盤とした創作作品、現代書の息吹を芸術表現につなげるよう、今後も従来の活動に加え、新しい指導システムも取り入れながら書の魅力を広く発信していきます。誠心社のホームページ、Facebookページ、Instagramも随時情報更新しております。

<http://www.seishin-sha.co.jp>

<https://www.facebook.com/seishinsha>

<https://www.instagram.com/seishinsha>



半紙サイズ一文字を皆で書く(左上:渡邊麗会長)



オンライン創作研究会、画仙紙課題-現代の語



オンライン添削をする渡邊麗会長

齋藤香坡最高顧問が横浜文化賞を受賞

芸術、学術、教育、社会福祉、医療、産業、スポーツ振興等の文化の発展に尽力し、その功績が顕著な方々を表彰する「第70回（令和3年度）横浜文化賞」に齋藤香坡最高顧問が選ばれ、11月22日に横浜市中区の関内ホール大ホールで行われた贈呈式で授与されました。

横浜の書道文化の普及発展に貢献したことが高く評価され、書家としては34年ぶり、2人目の受賞となりました。



山中竹春横浜市長から授与される齋藤香坡最高顧問

臨泉会の五戸光岳評議員、岩澤翠汀審査会員が青森県八戸市から表彰

11月4日八戸グランドホテルにおいて、2021年度の市政、教育、産業などの分野で著しく功績を上げた方々を表彰する「八戸市功労者・善行者表彰式」が行われ、功労者として臨泉会の五戸光岳評議員が授与されました。また、前日の3日には八戸ポータルミュージアムはっちにおいて、文化・スポーツの分野で輝かしい功績を上げた方々を表彰する「八戸市文化賞・文化奨励賞表彰式」が行われ、文化賞を臨泉会の岩澤翠汀審査会員が授与されました。



記念写真におさまる五戸光岳評議員（最後列左から5番目）



熊谷雄一八戸市長から授与される岩澤翠汀審査会員

高円宮賞受賞の松井玲月副理事長がユーチューブチャンネルで書を披露

第38回産経国際書展で高円宮賞を受賞した松井玲月副理事長が産経国際書会のためにユーチューブチャンネル「誰何TV SUIKATV」に出演。これまで取り組んできたご自身の書への思い、受賞作品について語ります。「この指とまれほんまモン2021/12/28」放送です。産経国際書会にかけける松井先生の熱い思いをぜひご覧ください。誰何TVの二次元バーコードからご覧いただけます。（事務局）



令和3年の書会活動

4月の総会、8月の研修会、12月の理事会は、多くの人が狭い空間に一度に集まってしまうということを考え、昨年同様中止といたしました。

今年の本展審査、ジュニア展の審査は3密を避けるなど感染対策に留意し、コロナ前と同様な感じで実施することができました。総括会議、会報会議などはリモートも駆使しながらリアルに開催し、総括会議は9月14日と11月9日の2回行いました。

来期は、役員改選期に当たりますが、風岡五城理事長の再任、建部恭子常務理事と町山一祥常務理事の副理事長昇格、木住野栄専管理事の参与昇格ほか49人の昇格を理事会書面決議にて承認いたしました。また、審査会員、無鑑査会員、会友については156人が昇格いたしました。

そして、来年度は産経国際書展の実行委員長を高橋照弘副理事長、教育部担当副理事長でジュニア展審査長を松崎龍翠副理事長が担います。令和5年(2023年)に第40回展、令和6年(2024年)に書会創立40周年を迎えます。この記念事業を企画する小委員会を組織しました。風岡五城理事長、坂本香心理事長代行、渡邊麗理事長代行、勝田晃拓副理事長、金丸鬼山副理事長、高頭子翠副理事長の6人です。

(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和4年1月～4月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第38回雅涎会書展	1月6日(木)～1月11日(火)	有楽町朝日ギャラリー	雅涎会(一色白泉)	
第40回記念埼玉県中央書道展	1月14日(金)～1月19日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	細渕柳青
泉の会第20回記念新春展	1月18日(火)～1月23日(日)	四街道市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
第85回龍峽書道展	2月5日(土)～2月11日(金・祝)	東京都美術館	龍峽書道会	林 龍成
第40回記念全国公募・学生部併設 煌心展	2月13日(日)～2月19日(土)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第20回書道 五月女紫映社中展	2月13日(日)～2月19日(土)	東京交通会館2階ギャラリー	書道 五月女紫映	五月女紫映
第37回景雲社「絆」書道展	2月14日(月)～2月20日(日)	クリエート浜松ギャラリー35	景雲社	勝田晃拓
古希記念 小熊春洋書作展	2月14日(月)～2月18日(金)	大宮氷川の杜	小熊春洋(光華書道会)	
第33回書成会書展	2月17日(木)～2月20日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
2022菽水書人社展	3月3日(木)～3月6日(日)	銀座かねまつホール	菽水書人社	今田篤洞
第38回書のコアメントールばくりん	3月8日(火)～3月13日(日)	銀座鳩居堂画廊	墨林書道院	遠藤乾翠
第50回八戸臨泉会書展 第73回八戸臨泉会学生書道展	3月11日(金)～3月13日(日)	八戸市美術館	臨泉会	原田圭泉
第9回諸留大穹個展	4月5日(火)～4月11日(月)	ART SPACE IGA (三重県伊賀市)	諸留大穹(書研社)	
誠心社現代書小作品展	4月8日(金)～4月14日(木)	上野の森美術館ギャラリー	誠心社	渡邊 麗
翠香会書展	4月19日(火)～4月24日(日)	銀座鳩居堂画廊	翠香会	齊藤春欣

田中鳳柳先生を偲んで

田中鳳柳先生は産経国際書会初代理事長林錦洞先生の後を受けて、第二代理事長として産経の充実・発展に大きな足跡を残された。その業績の中でも「赤羽雲庭展」と「何紹基展」の開催は特筆に値する。先生は日頃から書の古典に親しみ、書の勉強には本物に対峙して目で学ぶことが大切であることを標榜しておられた。この二大事業を通して産経の在るべき姿、進むべき方向性を示されたのだ。そしてこのことは書会会員へのメッセージとなったばかりでなく、広く日本の書道界にも反響を呼び、結果的に産経の存在価値を高めることに繋がったと思う。書の話をする時の先生の嬉しそうな顔を思い浮かべながら、感謝を込めて合掌。

風岡五城（理事長）



田中先生のご自宅で（左から風岡理事長、青柳堂浅岡隆史氏、田中鳳柳先生、勝田晃拓副理事長、山本晴城常務理事）

田中鳳柳先生御逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します。長い間産経国際書会を育てて頂きましたお蔭で、驥尾に付した私も何とか斯道に携ってこられました。

田中鳳柳先生と私は、赤羽雲庭先生の門下生でしたが、私は神田の先生宅で水曜日に御稽古を頂いた内弟子、田中鳳柳先生、小野田雪堂先生は出稽古の外弟子でした。入門して間もなく、赤羽先生の手本が載っている小野田先生の書道誌を買って、先輩にたしなめられ、内・外弟子交流の欠如を知り唖然としました。赤羽先生がミュンヘンオリンピック芸術祭参加の折、先生お見送りの空港で内・外弟子が顔を合わせたのは偶然でした。書会入会後は田中先生とお会いするようになりましたが、立場は雲泥の差、気安くお話できませんでした。御指導や御相談をお願いできぬまま、天国へ旅立たれたことを只々遣る瀬無い思いで後悔し、安らかにお休みになることをお祈りするばかりです。合掌。

加藤深流（顧問）



2018年台湾展のときの歓迎レセプションでの揮毫会



2014年研友社展にて（右は熊坂隆光産経新聞社長＝当時）

追悼

次の先生が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

最高顧問 田中 鳳柳(令和3年11月) 理事 高橋 峰雪(令和3年11月)

編集後記

令和4年の幕開けを迎えました。コロナ禍の中で例年になく変化の年を送り、薄明かりの感じられる希望に向って行けるような年になることを願っております。このコロナの収束とは言い難い状態ですが、これもワクチン接種のおかげかなと思っております。

多くの書展開催が出来なかった中で、慎重に万全の対策を立てて開催された産経展は書会、会員の皆さんの苦渋の選択で勇気ある思いの結果に他なりません。

また、東北展、瀬戸内展、中部展、関西展を無事終了することが出来ましたことを感謝致し、実行委員の先生方、本当にお疲れ様でございました。素晴らしい結束の賜でした。

齋藤香坡最高顧問が横浜文化賞を受賞されました。これは書家としては34年ぶりの名誉ある素晴らしい受賞であり、会員こぞってお祝い申し上げます。

書会最高顧問として長年に亘り素晴らしい指導力を発揮され多大なご尽力を賜りました田中鳳柳先生が11月3日肺炎のためご逝去されました。大変残念なことでございます。心よりお悔やみ申し上げます。

昨年は経験したことのないさまざまな事態を乗り越えて来ました。令和4年が書会にとりましても会員皆さんにとりましても、新しい出発の決意を持って、明るく前向きに頑張ってゆく年になりますよう、切に願っております。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和4年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

email : shokai@sankei.co.jp

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。